

特集1

世界へ漕ぎだせ！視界よしっ！

異文化実習 in Korea



特集2

地域在来野菜の伝統的活用と新たな創造に向けて

人文学部教授 永松 敦

しっぽり語る。

KYO-SHIP

CIRCLE DE GOSHIP

連続リレーエッセイ いいだしっぺ

事務局組織体制変更のお知らせ

MMU NEWS PLUS

未来の compass

MIYAZAKI MUNICIPAL
UNIVERSITY
COMMUNICATION MAGAZINE
"MMU SHiP"

vol.10

今回の表紙 韓国の料理と異文化実習で韓国に向かう MMU の学生

特集1のテーマは、MMUの短期留学プログラムの一つ「異文化実習」の様子について。今回は、蔚山大学校（韓国）で実施された異文化実習の現場に職員記者が赴き、MMUの学生がどのような学びを得ているか密着取材しました。留学中の様子やプログラムの内容を詳細にお伝えします。



クラス分けのためのプレースメントテスト。日本の他大学で韓国語を学ぶ学生との交流も生まれる。



留学生宿舍の室内。高層階のため、窓からの見晴らしが良い。



蔚山大学校の留学生宿舍の一つ、国際館。夏季休暇期間は短期留学生を受け入れ、新学期が始まると長期留学生の宿舍として使用されている。



民族衣装体験



テコンドー体験。本格的な演舞の後、マンツーマンで教わる。



留学生宿舍の食堂での朝食。「日本よりも朝から重たいものをしっかり食べる」との感想も。



蔚山の商店街で開催される「水鉄砲祭り」。泡だらけになって楽しめるのは若者の特権。パートナーと友情を深め、様々な思い出ができる。



韓国式陶芸「オンギ」体験



韓国語のクラスは10人前後で構成され、座学だけではなくゲームも取り入れられている。



サイトビジット（慶州）の様子

本研修の一番の魅力は、蔚山大学校の韓国人生との交流機会が豊富であり、友人がたくさんできる点にある。

蔚山大学校は、本研修のために日本語が堪能な学生を「学生スタッフ」としてアルバイトを雇用しており、語学プログラム以外の業務の中心を担う。「学生スタッフ」は、歓迎迎のパーティーや交流イベントを主体的に企画・運営するほか、日々の研修の様子を写真に収め、韓国人教職員の同時通訳までこなす。

また、日本人との交流を希望する「パートナー」が、それぞれの研修生のサポートを担当する。本学の参加者は1〜2年生であり、パートナーは蔚山大の2〜3年生が多いので、「韓国人のお兄ちゃん（オッパ）とお姉ちゃん（オンニ）」ができる感覚である。パートナーは研修期間中の様々なプログラムに同行し、大学や近辺を案内してくれる。プライベートな昼食・夕食を共にしてくれたりする。休日には、蔚山近郊や釜山まで一緒に遊びに行く。もはや、「友達を作るな」という方が難しいほどに交流を深めていくのである。

研修最終日の午前中は、韓国語のスピーチ大会が開催される。学生たちは、韓国語クラスの指導教員やパートナーたちが見守る中、3週間の韓国語学習の成果を発表する。

平成28年度の韓国異文化実習に参加したのは1〜2年生合計21人。前年度の韓国実習がMERSの影響で中止になった経緯もあり、今年度は多くの参加者が集まった。異文化実習は正規の授業科目であり、韓国渡航前の前期授業期間に3コマの事前研修、さらに、帰国後に3コマの事後研修を実施して、所定の成績を修めれば2単位が付与される。

8月6日に宮崎空港を出発し、福岡空港経由で釜山の金海国際空港に到着。その後、語学・文化研修を実施する蔚山大学校の送迎バスで蔚山大学校まで移動し、留学生宿舍にチェックイン。3週間の研修期間をこて過ごすことになる。

留学生宿舍の国際館は現代的な高層建築で、高層階のワンフロアが研修生に与えられる。部屋は2人一部屋のワンルームで、各部屋には専用のユニットバス、デスク、冷蔵庫が設置されている。部屋の鍵はパスワード式のオートロックだ。

朝食は留学生宿舍の食堂で提供され、昼食と夕食は大学内に複数ある学生食堂やカフェ、大学周辺の飲食店で自由に食べることができる。チキンやピザ等のデリバリーサービスを利用する学生も多い。

蔚山大学校での研修は、韓国語の授業と韓国文化体験で構成される。本研修には、MMUの他にも福岡大学、島根県立大学、愛媛大学、目白大学が参加しており、すべての学生は研修初日に韓国語のプレースメントテストを受け、習熟度別に5段階のクラスに振り分けられる。

韓国文化体験は、韓国陶芸やテコンドー、民族衣装、韓国料理クッキングなどの体験型アクティビティ、蔚山の観光名所や現代自動車の蔚山工場、古都慶州のサイトビジットなど、豊富なメニューが揃う。

3週間のプログラムを通じて、学生は韓国語と韓国文化について学んでいくことになるが、

蔚山大学校での3週間の
韓国語・韓国文化プログラム

世界へ漕ぎだせ！
視界
YOSHIP!
よしっ！



異文化実習 in Korea

MMU はすべての学生が参加できる約1か月の短期留学プログラムとして、「異文化実習」を世界6か国で行っています。今回は、平成28年8月に実施した韓国での実習の様子を密着取材しました。



韓国の首都、大都会ソウルでの自由行動は、学生が最も楽しみにしている時間。複雑に交差する地下鉄を乗り継いで、それぞれの目的地を目指す。

平成 28 年度韓国蔚山大学校異文化実習プログラム内容

日程	プログラム	
	AM (9:00-12:00)	PM (14:00-17:00)
Aug.6	出発・蔚山大学校到着	
Aug.7	プレイメントテスト	オリエンテーション・対面式等
Aug.8	韓国語授業 1	韓国語授業 2
Aug.9	韓国語授業 3	韓国文化体験（陶芸）
Aug.10	韓国語授業 4	韓国語授業 5
Aug.11	韓国文化体験（慶州見学）	
Aug.12	韓国語授業 6	韓国語授業 7
Aug.13	自由行動	
Aug.14	自由行動	
Aug.15	韓国語授業 8	韓国文化体験（テコンドー）
Aug.16	韓国語授業 9	韓国語授業 10
Aug.17	韓国文化体験（伝統文化体験）	
Aug.18	韓国語授業 11	韓国語授業 12
Aug.19	韓国語授業 13	韓国文化体験（韓国料理）
Aug.20	自由行動	
Aug.21	自由行動	
Aug.22	韓国語授業 14	韓国語授業 15
Aug.23	韓国文化体験（蔚山見学）	
Aug.24	韓国語授業 16	韓国語授業 17
Aug.25	韓国語スピーチ大会	修了式・送別会
Aug.26	ソウルツアー（独立記念館見学）	
Aug.27	ソウルツアー（板門店見学）	
Aug.28	ソウル自由行動	
Aug.29	ソウル自由行動	
Aug.30	帰国	

午後は、「隠し芸大会」という名目の出し物の発表会。K・POPのBGMとともに、各韓国語クラス単位で練習したダンスが披露される。

その後修了式が開催され、スピーチ大会の受賞者の発表と表彰、研修の修了証の授与が行われる。学生たちは、サプライズで担当教員の誕生日を祝ったり、フレンドリーでフランクな雰囲気の中でセレモニーは進行する。

最後に、研修の様子をまとめたメモリアルムービーが上映される。これは学生スタッフフリーダーのミンス君が2週間かけて編集した、30分に渡る力作である。3週間の研修期間に撮りためられた数千枚に及ぶ写真や動画が、プロ顔負けの技術で編集されている。研修生やパートナーたちが、笑顔で研修を振り返ることができる素敵なプログラムである（なお、このメモリアルムービーと写真は、帰国日にすべての参加者にプレゼントされる）。

最終日の夜は、国際館の大部屋で送別会が開催される。パーティーの後も、研修生は韓国人のパートナーたちと外食に出かけたり、宿舎の部屋で語らいながら、別れを惜しんでいた。

4泊5日のソウル研修



メモリアルムービーの上映会。3週間の青春ドラマに仕上がっていた。



「隠し芸大会」での出し物。韓国語クラスのメンバーと授業の合間に練習して準備したとのこと。



平成 27 年度 MMU 交換受入留学生の李恩知さん（本誌 8 号に登場）も、スピーチ大会で研修生の応援に駆けつけてくれた。

参加者へのインタビュー

記者（以下、記）…異文化実習に参加したきっかけは？

崎山（以下、崎）…韓国語を勉強したくてMMUを選んだので、入学前から決まっていた。

記…蔚山でのプログラムはどうでしたか？
崎…実習前は韓国語を話す際に小さな間違いを気にしていましたが、蔚山では当然韓国語以外使えない環境です。毎日韓国語で会話しているうちに、韓国語を話すことに抵抗がなくなったことが一番大きな収穫ですね。

記…3週間で一番印象的だったことは？

崎…たくさんあるのですが、一番はやっぱりDMZですね。韓国と北朝鮮の国境について教科書で読んだことはありましたが、どこか他人事のように考えていたところがあります。実際に訪問してみても、兵士の威圧的な態度や国境の風景から、韓国と北朝鮮の緊張関係が現在も続いていることを実感しました。これまでの人生の中でも1・2を争うほど衝撃的な体験でした。

記…帰国後に感じている変化は？

崎…アルバイト先でワーキングホリデーで働いている韓国人と、以前よりスムーズに話せるようになりましたね。あと、韓国でたくさん友人ができたことで、韓国語の授業にも以前より力が入っています。

記…来年度の参加を考えている後輩に一言
崎…韓国語ができなくても、まずは飛び込んでみるのが大事だと思います。言葉が通じな

くて落ち込むこともあるけれど、それも含めて良い経験になります。



異文化実習参加者
崎山 真子さん(2年生)



海外の異文化に飛び込む意義

3週間に及ぶ研修で、学生たちは何を感じ、何を得たのか。

研修生の成果報告書によると、まず「韓国語でコミュニケーションを取らざるを得ない環境に身を置いたことで、韓国語のリスニングとスピーキングの能力が向上した」という語学面での成長の実感である。韓国語の授業をはじめ、パートナー、観光や買い物で出会う韓国の地域住民とのコミュニケーションの全てが、語学学習につながる。

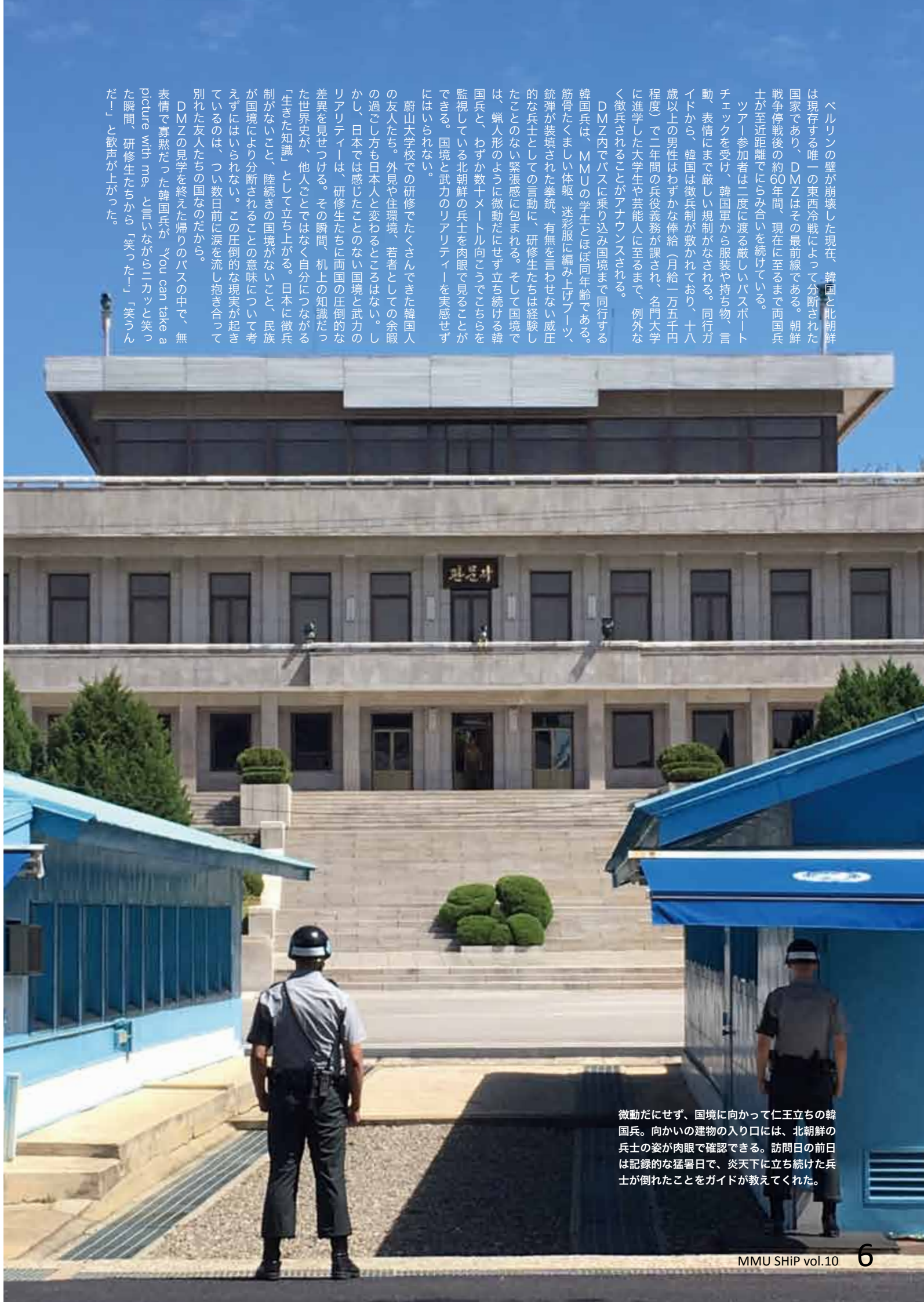
一方で、「韓国語で表現したい内容にまだまだ語学力が追いつかない」と、韓国語学習のゴールの遠さを実感した学生も多く、帰国後の勉強のモチベーションにつながっている。

また、語学に限らず、パートナーとして出会った韓国人学生の、大学生活や将来に対する意識の高さに刺激を受けた学生もいる。「ダラダラとスマホをついついてる時間にやれることはたくさんある」と気づかされたという。

「現在どのような目標を持ちながら大学で学び、卒業後は何をするのか」といった話ができる友人は貴重であり、外国人ならなおさらである。当然のことながら、世界中で同年代の大学生が学び、将来に備えているが、国境を越えなければこの事実実感できない。

加えて、最も印象に残っている出来事として、ソウル研修で訪問したDMZや独立記念館での体験を挙げる学生も多い。韓国語と韓国文化を学び、友好関係を築いていく上で、日韓の歴史認識をめぐる問題は避けて通ることができない。両国において感情的な衝突が絶えないデリケートな問題であるからこそ、メディアに溢れる真偽の定かでない情報を鵜呑みにするのではなく、自分自身で現地を訪れ、客観的な事実を認識し、相手の意見にも耳を傾け、主体的に思考する必要がある。

「お互いの国の歴史を知ることが友好関係を築く第一歩だと思う」と冷静に話す独立記念館のスタッフや、「いつか北朝鮮に住むお父さんに会



微動だにせず、国境に向かって仁王立ちの韓国兵。向かいの建物の入り口には、北朝鮮の兵士の姿が肉眼で確認できる。訪問日の前日は記録的な猛暑日で、炎天下に立ち続けた兵士が倒れたことをガイドが教えてくれた。

平成 28 年度韓国蔚山大学校異文化実習費用一覧	
蔚山大学校での授業料	▶ 交流協定により免除
蔚山大学校での宿舍滞在費	▶ 交流協定により免除
蔚山大学校滞在中の朝食・保険料	▶ 約 13,000 円
渡航費 (航空券、ソウルツアー料含む)	▶ 約 50,000 円 (10 万円の半額を MMU が助成)
合計 (自己負担額)	▶ 約 63,000 円

そして、このような体験は、言うまでもなく、今後の学生たちの大学での学びや卒業後の人生に、大きな影響をもたらすだろうと考えられる。大学生の長い夏休み期間に行われる、韓国での充実した3週間の短期留学。MMUでは、蔚山大学校との交流協定により授業料及び留学生宿舍費用が無料となり、学生自己負担額は7万円弱で参加することができる（左表参照）。ダラダラとスマホをついついてるうちに夏休みが終わるのは、あまりにももったいない。

「いたい」というDMZツアーガイドの切実な声に、大きな感銘を受けたという意見が多かった。関連して、「韓国人は日本の近代史について、日本の政治家の名前も挙げながらスラスラ説明し、日本人の自分よりも詳しい」ことにショックを受け、帰国後に歴史を学び直したいと意欲に燃える学生もいた。

それぞれの意見に共通するのは、これまで日本で過ごしてきた人生の中で出会うことのなかった「海の内側の他者」という比較対象を通して、自分の国や文化、言語、そして自分自身の生き方を再考するきっかけになったということである。

SHIPPORI

誘る。

学生相談員のホンネ

MMUの学生相談室では、臨床心理士の先生方が、人間関係や勉強のこと、進路のことなど、大生活の安心して送れるように様々な悩みの相談に応じています。でも、初めて会う人に自分の悩みを打ち明けるのは勇気がいることですね。そもそもどんな方が相談に応じてくれるのかも気になることです。そこで今回は、MMUの学生相談体制の紹介として、学生相談員である3名の先生方にしつぽりと語っていただきました。

笑いあえる瞬間を大事に

坂邊…人と初めて会うときって緊張しますよね。実は私も緊張するタイプなんです。だから初めての方とお話するときは深呼吸して、ゆっくりと間をとってお話します。また、お話ししていく中で、お互いに笑いあえる時間を作ることを心掛けています。

荒川…そうですね、お互い笑顔になれる雰囲気って大事ですね。もちろん、相談内容にもよりますが、私もクスクスと笑いあえるときがあるといいなと思いつつながら相談を受けています。また、基本的なことですが、相手の話を聴く姿勢であることを、そして相手の良いところを見つけていることを心掛けていますね。

末吉…私もそれに近いのですが、「その人の持っている力を引きだせるようにする。」ということをお話してお話を聴いています。ただ、そもそも相談室のドアをノックするのは勇気がいりますよね。自分で何とかできそうな悩みであれば別ですが、誰かに話すことで早く気持ちが安らぐこともあります。そんなときはご自分のタイプ

ミングで相談室のドアを開けてみてほしいなと思います。
荒川…優しいお姉さん、いやオバさんが待っていますよ（笑）。
坂邊…いえいえ、まだまだお姉さんですよ、私たち（笑）。それに、「相談」というと身構えてしまいがちですが、学生さんには「虫歯がまだ小さいうちに治療すれば早く治るように、悩み事も小さなうちに打ち明けてみるといういよ」と伝えていくんです。



（写真左から）末吉 理伊子先生、坂邊 タ子先生、荒川 良枝先生

現実的な悩みから人生観まで

荒川…大学時代は「自分とは何か?」「何のために生きているのか?」といったことを考える時期でもありましたね。そのような、お友達同士ではなかなか話せないことでも、言葉にすることで頭の中を整理できることもあります。

末吉…そうですね。例えば勉強のことや進路のことといった現実的な相談はもちろん、人生観について意見を交わし合うこともありますよ。

坂邊…お友達同士では親しいからこそ話せないような内面的なことだからこそ、かえって相談室ではゆっくり話せるのかもしれないですね。相談の予約が空いていけば飛び入りの相談も受けていますが、できるだけ予約をしていただいた方がよりゆつくりとお話ができますよ。

こんなことを楽しんでいます

坂邊…私は、小説では灰谷健次郎さんの本が好きなのですが、学生さんとのお話の中で、「この本が面白いですよ」と教えてもらうこともあります。最近は荒川弘さんの『百姓貴族』というマンガがとても可笑しくてハマっていますね。

末吉…私も北大路公子さんのエッセイが好きですね。くだらないところやマイペースが面白い（笑）。他には旅行や茶道も楽しんでいます。

荒川…私は、スケジュールの空き時間に映画館に行くことが多いですね。いろんな映画を観るのは楽しいですが、中にはよく分からない内容の映画もあって、今日はハズレって思うこともあります（笑）。また、「未見の我を発見せよ」という言葉が好きです。年齢をどんなに重ねていっても、新しい自分に出会うことがあります。自分自身を早いうちに規定するよりも、様々なことに挑戦して、まだ見ぬ自分を発見したいですね。

末吉…先ほども言ったように、相談室のドアをノックするのは勇気がいることですが、私を含め、こんな優しいお姉さん?たちが待っていますので、気軽にノックしてくださいね（一同笑い）。

MMU 教員の頭の中

KYO-SHIP

Vol.09

MMUの教員が、講義では垣間見られない「頭の中」を語ります



宮元 章次 教授

(スポーツ・健康科学)

Professor Shoji Miyamoto

昭和 31 年生まれ。筑波大学体育専門学群卒業、同大学大学院修士課程体育研究科健康教育学専攻修了。体育学博士。大学院修了後、琉球大学勤務を経て平成 5 年より本学に着任。

専門は運動生理学。平成 23 年に「二重エネルギー吸収法からみた身体組成の研究」により日本運動生理学会賞を受賞。また、高校時より始めたハンドボールでは国体選手に選ばれ、指導者、普及者としても平成 23 年に日本体育協会・日本オリンピック委員会から功労者表彰、平成 25 年に日本ハンドボール協会創立 75 周年記念功労者表彰を受ける。

THEME1

やんちゃ少年、ハンドボールに目覚める。

宮崎県都城市に生まれ、幼少時は朝から晩まで外で遊びまわる子どもでした。誰かに教わるわけでもなく自然と鉄棒で大車輪ができていたり、中学時代には不良を投げ飛ばしたりと、身体が強い方でした。突然、「おい、明日高千穂に行くぞ」と友人たちを誘って、早朝から自転車が高千穂の山道を登ったこともありました。あれは楽しかったなあ。野球少年だった中学時代を経て、高校から始めたハンドボールでは、皆で強いチームを作り上げていった、九州大会でベスト4に残るまでに成長したんです。あの頃は「宮元、お前勉強しないで大丈夫か」と心配されるほどハンドボール漬けの毎日でした（笑）。

最初に勤務した琉球大学でハンドボールの指導を始め、また普及のために離島を回ったりもしました。骨折をした学生を病院へ連れて行くことも多く、医師からは「今度は健康な人を連れてきてください」なんて言われてね。そのときに「健康な人の骨の基準値を知りたい」という医者のニーズに気づいたんです。それがその後の研究へと進むきっかけになりました。

THEME2

新しい指標、その名は『フィットネス』。

アルキメデスが、水を張った容器に王冠と同じ重さの純金、純銀、そして金と銀の混ざった王冠をそれぞれ入れて、あふれ出る水の量で王冠の不正を見破ったという話がありますよね。そのアルキメデスの原理のような方法で、人間の身体を組成する骨や脂肪、それ以外のものを測り、成人女性の体脂肪率測定のための基準式を作ったんです。それまでは成人男性用の基準式をもとに女性の体脂肪率の測定が行われていましたが、この基準式を応用すれば、より正確に女性の体脂肪率を測定できるようになります。

今はさらに、メタボリック症候群のより分かりやすい測定基準を研究しているところです。現在、肥満指数とも呼ばれるBMI (Body Mass Index = 体重 (Kg) ÷ (身長 (m))²) の値でメタボの判断をしていますよね。ただ、この基準は身長と体重による指標なので、体重が軽ければ体脂肪率が高くて「痩せ」になってしまう。だからBMIに体脂肪率、有酸素能力であるスタミナ、そして筋力を加えた「フィットネス」という指標を作りました。健康を維持するために多くの人にとって分かりやすい指標にしたいですね。

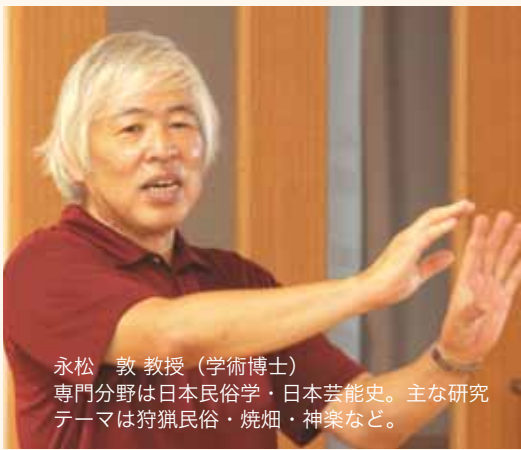
THEME3

青年よ、壁にぶつかれ。

学生の皆さんに伝えたいのは、「弱して変じ、変じて通ず」ということです。「弱して」というのは行き詰まる、壁にぶつかるということです。壁にぶつかって途中で止めてしまふ人は多いですね。でも、壁にぶつかったことで目標は半分達成しているんです。それを乗り越えて初めて「通ず」、つまり達成できる。壁にぶつかって、何を恐れず、むしろ達成できる。壁にぶつかって、何がいけないのか、どこを工夫すればいいのか、懸命に考え行動していったほうがいいと思います。

地域在来野菜の伝統的活用と新たな創造に向けて

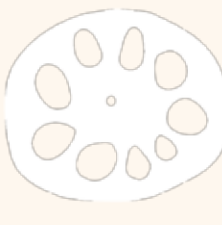
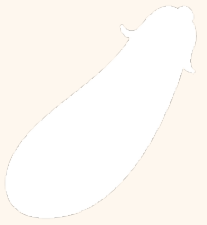
MMUでは今年度、宮崎県農商工連携応援ファンド事業（以下、農商工ファンド事業）の採択を受けました。最近、佐土原ナスや生目黒皮カボチャなど、古くから地域に根付く野菜いわゆる「在来野菜」のブランド化が進み、注目度も高まっています。そこで、農商工ファンド事業の実施責任者である、永松敦教授より、在来野菜の研究にまつわるお話を伺いました。



―着想の経緯を教えてください。

平成22年くらいに、介護関連の方からある相談を受けたんです。私の専門は民俗学ですが、その調査過程において、かなり多くの高齢者からお話を聞きます。その経緯をもとに、介護の現場において高齢者を元気づけたり、楽しみを与える良いアイデアはないかと。

その方はダイバーショナルセラピー（※）という介護をやられている方で、その名の通り、目先を変えた方法を取り入れたいということでした。その方の職場は大阪、そして私も大阪出身ということもあり、「河内レンコンでやってはどうか」と提案しました。



―なぜいきなりレンコンが？
実は、私が子供の頃は大阪にもいっぱいハス畑があって、夏にハスの実をとって食べていました。そしてその味を、私は今だに覚えているんですよ。大阪では他にも昔から作られている野菜、例えば守口大根とか、そういった昔を想い起すようなものを高齢者に食べてもらうとか、栽培や収穫するといった機会を、介護の環境として提供してみてもどうかと。いわゆる回想法を提案したわけです。そしたら、「河内レンコンってまだあるのか？」という話になって、調べたら門真市にまだ残っていることがわかりました。河内レンコンについても興味湧いてきて、一時期は様々な土地のレンコンの調査に熱中していました（笑）。

生産者は限られているので、生産者が一人いなくなったら作物の種類が一つなくなるという状況にも陥りかねません。つまり、大げさに表現すると、その地域に根付いていた伝統が一つなくなってしまうということです。
そこで、これは民俗学の方面からきちんと調査し、後世に残す必要があるだろうと考えました。よって、宮崎のごく一部の地域でしか作られていない作物、いわゆる在来野菜の食べ方、栽培法などを調査することになったのです。それに加え、いくら伝統があるとはいえ、売れない物を作り続けようとは誰も思いません。生産者はちゃんと売れる努力をする必要があると思うのです。そこで、売れる野菜を作るにはどうすればよいかという点についても平行して研究しています。なお、在来野菜の中にも、佐土原ナスや生目黒皮カボチャのように、すでにブランド化されているものもありますので、それは「流通型在来野菜」と称し、別のカテゴリーとして取り扱うことにしました。

―なるほど、ではそのレンコンと在来野菜の研究の関連は一体？
そのレンコン調査をする中で、百姓市や道の駅に足を運ぶ機会が多くなったのですが、そこには名前のないカボチャや馴染みのない野菜が沢山あることに気づきました。しかもそれが二束三文で売られているんです。生産者から話を聞くと、昔からずっと作ってはいるが、安くしても売れなくて困っているとのこと。生産者は70歳とか80歳の高齢者が中心で、「このままだと作り続けるのは難しい」とおっしゃる。「食べる」とすぐ美味しいのに」という言葉に興味を持ち、実際に食べさせていたいたら、これが本当に美味しかった。

―すでにブランド化された作物を作っておけばいいというわけではないのでしょうか？
様々な種類をきちんと残していくということは民族学的にとっても大切なことです。ひと昔の農家は複合生産といって、メインの作物を作っていたとしても、そのほかの作物も作ったり、漁をしたり、藁細工でカゴ作ったり、色々なことを生計を立てていた。現代のサラリーマンのように1つの仕事のみで生きていたわけではありません。農業は自然が相手ですから、メインで作っていた作物が天候不順等でやられた時に、別の方法で食べていく必要があります。そのため、仕事を分散させることでセーフティネットを張っていたんです。それが、今の近代的な農業の考え方は希薄になってきています。ブランド野菜など、売れる作物を流行に乗っけてうまく作っているときはいいのですが、病気で全滅したり、流行が去った時には多大なダメージを受けてしまいますし、すぐ別の作物にシフトするというのも難しい。また、そこに根

―着想の経緯を教えてください。
平成22年くらいに、介護関連の方からある相談を受けたんです。私の専門は民俗学ですが、その調査過程において、かなり多くの高齢者からお話を聞きます。その経緯をもとに、介護の現場において高齢者を元気づけたり、楽しみを与える良いアイデアはないかと。

その方はダイバーショナルセラピー（※）という介護をやられている方で、その名の通り、目先を変えた方法を取り入れたいということでした。その方の職場は大阪、そして私も大阪出身ということもあり、「河内レンコンでやってはどうか」と提案しました。

―なぜいきなりレンコンが？
実は、私が子供の頃は大阪にもいっぱいハス畑があって、夏にハスの実をとって食べていました。そしてその味を、私は今だに覚えているんですよ。大阪では他にも昔から作られている野菜、例えば守口大根とか、そういった昔を想い起すようなものを高齢者に食べてもらうとか、栽培や収穫するといった機会を、介護の環境として提供してみてもどうかと。いわゆる回想法を提案したわけです。そしたら、「河内レンコンってまだあるのか？」という話になって、調べたら門真市にまだ残っていることがわかりました。河内レンコンについても興味湧いてきて、一時期は様々な土地のレンコンの調査に熱中していました（笑）。

―なぜいきなりレンコンが？
実は、私が子供の頃は大阪にもいっぱいハス畑があって、夏にハスの実をとって食べていました。そしてその味を、私は今だに覚えているんですよ。大阪では他にも昔から作られている野菜、例えば守口大根とか、そういった昔を想い起すようなものを高齢者に食べてもらうとか、栽培や収穫するといった機会を、介護の環境として提供してみてもどうかと。いわゆる回想法を提案したわけです。そしたら、「河内レンコンってまだあるのか？」という話になって、調べたら門真市にまだ残っていることがわかりました。河内レンコンについても興味湧いてきて、一時期は様々な土地のレンコンの調査に熱中していました（笑）。

付く伝統的な農業文化が忘れ去られてしまう。だから、複合的な要素をうまく組み込む方法として、主力の作物が売れているならそれに8割を費やし、残り2割はその土地に根付く伝統的な作物を作るのがよい。リスクも分散することができるし、伝統的な文化も継承できる。これは民俗学の視点から見ると非常に重要なことだといえるでしょう。

―忘れ去られそうな在来野菜も、継続的に作り続けられる仕組みができれば安心ですね。

その通りです。ただ、前述の「流通型在来野菜」のように、すべての在来野菜をブランド化して全国に流通させるのではなく、狭い地域でちゃんと継続的に活用されるような仕組みを作る方が大切だと思います。若い人たちは昔ながらの食べ物の知識が乏しいので、まずは知識を持つ高齢者から、レシピをちゃんと聞いて記録に残しておくことが大切です。そしてその地域にある道の駅や、地域に根付く飲食店のメニューとして提供することで、そのレシピを継続的に伝えていく。できれば、その土地だけでしか味わうことのできない特別な料理として出した方がいい。その一番良い例が、宮崎県新富町の湖水ケ池のレンコンだと思います。生産量が限られているため、流通もごく一部に限られますが、その味を求めてわざわざ食べに来られる方もい



宮崎県新富町で生産される湖水ケ池のレンコン



奈良県大和郡山市で生産される筒井のレンコン

らつしやるようです。
また、奈良県の大和郡山市では、地元で収穫される在来野菜を給食に使っています。しかも、その給食のレシピ集まで作って配布している。給食で提供することで、まずは若い世代に地元の在来野菜を知ってもらおう。そうすれば、給食以外にも地域の需要が発生し、農家が継続的に作り続けることができる仕組みが整う。この大和郡山市の取り組みは、上手くしている例だと思っています。特に伝統の継承を食育とつなげている。これは大事ですね。

―作った作物が売れるということは、文化の伝承という点から見ても大事なのですね！

もちろん、売れるんだということが分ければ、若い世代も作ってくれます。やはり伝承していくためにも、売れることは絶対に必要な条件なのです。しかし、生産量が多くなればなるほど品質が悪くなる可能性も生じることから、適量を作ることが大事です。むしろ地域外へ出さない、作らせないことが自分達を守ることに繋がるかもしれません。

―生産者の意識は？

狭い地域で昔から作られている作物に関しては、生産者自身が大事であると認識していないことが多いです。民俗学をやっていると、そういう場面によく遭遇します。そりゃ昔から身近

―観光収入が第一ではないと？
観光を主体にやるうとするのはあまり良いことではないと思います。本来は人々の生活が主であるべきで、その収入源として観光があるはず。しかし今では、観光を盛り上げるために、生活スタイルまでも変えてしまい、全てを観光につぎ込んでしまう傾向にある。観光なんて流行り廃りが激しいですから、うまくいかなかった時のダメージは計り知れませんが、観光収入はあるに越したことはありませんが、それが急に廃れた時、元の生活に戻るための基盤を持つておくことが大事だと思います。

―学生もフィールドワークに参加しているようですが、反応はいかがでしょう？

民俗学はフィールドワークが大事ですからね。先日も学生を連れて種子島へ安納芋などの調査に行きましたが、わずか6日程度の調査で、未発見のものを見つけたとか、忘れ去られて無くなったと思われていたものを見つけたとか、地元の人々も驚く成果を得ることができました。こ



宮崎市生目地区で生産される黒皮カボチャ



宮崎市佐土原町付近で生産される佐土原ナス



宮崎県高岡町付近で生産される瓢箪力ボチャ



鹿兒島県アイランドキャンパス事業による種子島調査の様子。実際に現地に赴くことで、その地域に根付く様々な文化に触れることができる。

※ ダイバーショナルセラピー
各個人が、いかなる状態にあっても自分らしくよりよく生きたいという願望を実現する機会を持てるよう、その独自性と個性を尊重し、援助するために、「事前調査→計画→実施→事後評価」のプロセスに基づいて、各個人の「楽しみ」と「ライフスタイル」に焦点をあてる全人的アプローチの思想と実践である。（日本ダイバーショナルセラピー協会による定義）

↓中央のボーカルの彼は
取材当日に入学しました

私がお答え
します！

軽音部 部長
塩屋 日向子さん（3年生）
大衆文化・出版文化論ゼミ

CIRCLE GOSHIP No.10

今回の噂：目立ちたい人が集まる部活動があるって本当？

本当です！

私たち軽音部には先輩方のステージを
観て、目立ちたい！と思って入部する部
員も多いです。といっても、50名いる部
員全員、純粹に音楽を楽しんで練習して
います。常時活動するバンドもあります
が、学内での大学祭や新歓ライブ、セタ
ライブ、クリスマスコンサート、またラ
イフハウスでのイベントごとにバンドを
組むことも多いです。私も今年の大学祭
ではボーカル兼ギターで、チャットモン
チーの曲を演奏します。ただ、あまり特定
のジャンルに偏っていないですね。GLAY
やラルク、RADWIMPSといった邦楽
ロックもあれば、パンクロックの GREEN
DAY やヒメタルの MEGADETH を演
奏するバンドもあります。もちろん、オ
リジナルの曲も演奏しますよ。

また、他大学との交流も盛んです。ラ
イフハウス主催のカレッジVSシリーズ
というイベントでは、県内大学の8バン
ドが演奏を競い合っています。そのよう
なイベントを通じて、宮崎大学や宮崎県立
看護大学の学生とも仲良くなって。ちな
みに昨年のカレッジVSシリーズでは大
学PRビデオ部門で1位を獲得しました。
メインの演奏の方はまだまだ修行中だす
ね（笑）。

一般的に軽音部は不良みたいなイメー
ジもまだ残っているかもしれませんが、
部員はみんな結構真面目です！私もMM
Uに入ってからギターを始めたのですが、
最初は先輩方が優しく教えてくれました。
毎年恒例の新歓BBOQでは1年生ならタ
ダでお肉が食べられます。そんな素敵な
軽音部ではたたいまべースまたはドラム
をやってくれる方を絶賛募集中です！

発見の喜び

4年生は、そろそろ卒業論文の追い込み
に入っていると思いますが、今回は、私が
研究者になる道筋を紹介し、「研究の喜び」
すなわち「発見の喜び」を皆さんに話して
みます。

私は高校時代から、テスト前になるとテ
ストに関係ない本を読みたくなり、結局は
準備不十分で点数が悪いということが多々
あり、大学でも勉強より自分の興味ある分
野の本を読むことに熱中していました。大
学を出てすぐに大学院へは進学せず、民間
企業に就職してから鹿児島県庁に転職しま
したが、ちょうどその頃（1980年頃）、
地方は国の言いなりでなく、自ら創意工夫
して政策を作るべきという「地方の時代」が
唱えられ、自治体職員が政策研究をする時
代に突入しました。そのような中で高校時
代からのクセが発動したのか、私も仕事だ
けでなく違う自分の世界を作りたいと考え
るようになり、地方自治の学会に入会し、
研究を本格的にスタートしました。

私の研究テーマは、約3年毎に代わる所
属課とその業務についてでした。地方財政、
人事管理、福祉、地域活性化など、色々な分
野で3年に1本のペースで論文を書きまし
た。特に、大学の先生の指摘と、現場の実態
と違う点に焦点を当てて書きました。ある
意味、地方にいながら全国の学者を相手に
「先生の分析はここが間違ってますよ」と指
摘する論文であり、自分は全国レベルで研

◆執筆 有馬 晋作 教授（行政学ゼミ）

1955年鹿児島県に生まれる。鹿児島大学大学院
人文社会科学部研究科博士後期課程単位取得満期退学。
博士（学術）。鹿児島県庁を経て2004年より本学
に着任。専門は行政学および地方自治論。

究をやっているのだという自負心が、職場
でのストレス解消になりました。そして40
歳になって鹿児島大学大学院に社会人入学
し、48歳で本学の教員に採用されました。

その後、2007年に、東国原英夫さん
が宮崎県知事に当選し、宮崎県の知名度が
一気に高まったことを分析した『東国原知
事は宮崎をどう変えたか（2009年）』、
さらに橋下大阪府知事（当時）なども分析
した『劇場型首長の戦略と功罪（2011
年）』という本を出しました。最近では、小
池東京都知事が話題を集め「劇場型」と言
われていますが、劇場型の首長について分
析したのは、この本が初めてでした。今年
12月には『劇場型首長とポピュリズム』と
いう本を出す予定ですが、その中では、ア
メリカ大統領候補のトランプ氏の劇場型ポ
ピュリズムについて分析しています。

このように、自分の仕事をネタにスタ
ーとした研究が、ついにアメリカ政治までも
対象とするようになりました。人生何が起
こるか分からないです。身近な「何か変だ」
「どうなっているのだろうか？」が、私の
研究のスタートでしたが、研究を続けられ
た理由は、今まであまり指摘されていない
ことに気づいたとき大変興奮したからです。
この「発見の喜び」があれば、忙しい実社
会に出ても研究は続けられると思います。
皆さんには、このような「発見の喜び」を
卒論作成で味わってもらえればと思ってい
ます。

ういった「発見」を学生は大いに喜びます。こ
れは民俗学の特徴の一つでしょうね。まあ、対
象となるフィールドの住人から、一人一人丹念
に聞き取りを行う必要がある中で、時間と体力
を使いますがね（笑）。今回は在来野菜の調査以
外にも、地域の人の願いとして、昔の行事を一
部復元してもらいました。種子島ではその行事
が完全になくなってしまっているようで、我々
が調査のためにお願いしたことで、久々に復
元が実現しました。これには見せてもらった学
生だけでなく、復元した地元の人たちも喜ばれ
ていました。「ああ、昔こういうことをやってた
ね！」って、過去の記憶がよみがえるわけです。
となれば、また今後やっていこうという話も
出てきます。今回の我々のお願によって、文
化が一つ継承されるかもしれませんよ（笑）。

このように、学生は異なった文化を見て、触
れることで多くの刺激を受けます。フィールド
ワークでの聞き取りでは、社会性を身につける
良いチャンスにもなります。あと、うちのゼミ
はメディアから取材を受ける機会が多いことも、
彼らにとっては良い経験になっているのではな
いかと思います。

―最後に、今後の活動についてPRをどうぞ―
農商工ファンド事業として、平成29年の7月
まで、月1回の割合で在来野菜に関する講習会・
講演会を開催してまいります。直近の予定とし
ては、12月の下旬に西米良村において、西米良
神楽と米良大根に関する講座を実施する予定で
す。また、2月にはレンコンシンポジウムをや
る計画を立てています。これは別の事業を活用
して昨年も開催したのですが、大変好評をい
たしました。今回のシンポジウムには、新富町
のレンコン生産者をはじめ、茨城、大阪、奈良
から、生産者や関係者をお招きしてお話を伺う
予定です。各地の様々なレンコンを食べられる
貴重な機会となります。さらに、シンポジウム
の次の日には、新富町の伝統料理、湖水ヶ池の
レンコンを使った「ごりごり汁」に関する講習
会を開催します。このほか、延岡の内藤とうが
らしやアカバナインゲンマメに関する講座も計
画しています。ぜひ一度足をお運びください。

地域在来野菜の伝統的活用に関する講習会を開催中！

毎回違った在来野菜をとりあげ、その生産者や有識者等から、伝統的な活用方法や調理法についてお話を伺うことで、地域に根ざす食文化に触れていただく講習会です。試食の提供や調理実習など、参加者の皆様に楽しんでいただける内容もご準備しております。なお、ここでは第2回の様子を伝えします。

9月29日に、宮崎市の下北方町自治
公民館およびはちまんうどんにおいて、
佐土原ナスと下北方葉隠柿に関する講
習会を開催しました。

第一部の下北方町自治公民館には、平
日にもかわらず40名を超える参加者
にお越しいただき、佐土原ナス研究会の
長友徳孝氏から佐土原ナスの歴史や現
状について、宮崎大学農学部鉄村琢
哉教授から下北方葉隠柿の概要と接木
や挿し木等に関するお話を伺いました。
また、試食として佐土原ナスの路地物と

ハウス物を提供し、その味の違いを比較
していただきました。参加者の中には、
生産者オスメの調理法や調理する上
でのアドバイスなどを熱心にお聞きに
なされている方もいらっしゃいました。

また、第二部のはちまんうどんでは、
佐土原ナスをトッピングとして利用し
たうどん・そばを提供いただきました。
通常メニューとして提供されているも
ののほか、特別メニューもご用意いた
したことで、佐土原ナスの活用方法や魅力
を十分に堪能いただけたようです。

皆様のご参加をお
待ちしています！
詳細はウェブサイト
をチェック！

黒木 さゆみさん



脇坂 峰子さん



企画総務課 企画係長
福元 康敏



● ウェブサイトアドレス：http://www.miyazaki-mu.ac.jp/info/community/post_297.html

MMU NEWS PLUS

2016.4 ~ 2016.10

INDEX

- 4 April 平成28年度入学式を挙行
- 5 May 市民講座「ジャズとアメリカ文学入門」を開催（7月27日まで全10回の実施）
- 6 June 大賀教授による自主講座「古文書講座」を開催（入門編・初級編・中級編の全3回）
ドキュメンタリー映画『何を恐れる？フェミニズムを生きた女たち』の上映会を開催
プチキャンパスガイドを開催
- 8 August 戸高教授による「ひらめき★ときめきサイエンス（目指せ発音マスター）」を開催
MMUキャンパスガイド2016（オープンキャンパス）を開催
永松教授による講習会「地域在来野菜の伝統的活用と新たな創造に向けて」を開催（詳細は特集2を参照）
- 9 September 古本募金を活用した「ブックループ100円定食」を初提供（学生限定）
- 10 October 次期学長として有馬晋作教授を決定
定期公開講座「国際政治経済のフロンティア」を開催（11月4日）



9/26 ブックループ100円定食を初提供

本学で取り組んでいる古本募金「ブックループ」で集まった寄附金をもとに、学生食堂で「100円定食」を実施しました。在学生を対象に、用意した150食分の定食が約1時間で売り切れました。今後も皆さまからご寄附いただいた寄附金は学生支援のため、有効に活用してまいります。



5/25 市民講座「ジャズとアメリカ文学入門」を開催

ジャズにまつわる歴史や背景と、その年代のアメリカ文学について学ぶ講座を、5月25日から7月27日までの全10回にわたって開講いたしました。講師にはアルトサクソフーン奏者などジャズに関するプロの楽器奏者のほか、文学に精通された方々をお招きし、大変ご好評いただきました。

PICKUP NEWS

MMUの新着情報は、ウェブサイトでもご確認いただけます。

宮崎公立大学広報誌『MMU SHiP』は vol.10 を迎えることができました。 これからも MMU の最新情報をお伝えしてまいります。



●『MMU SHiP』のバックナンバーは MMU ウェブサイト（<http://www.miyazaki-mu.ac.jp>）よりご覧いただけます。

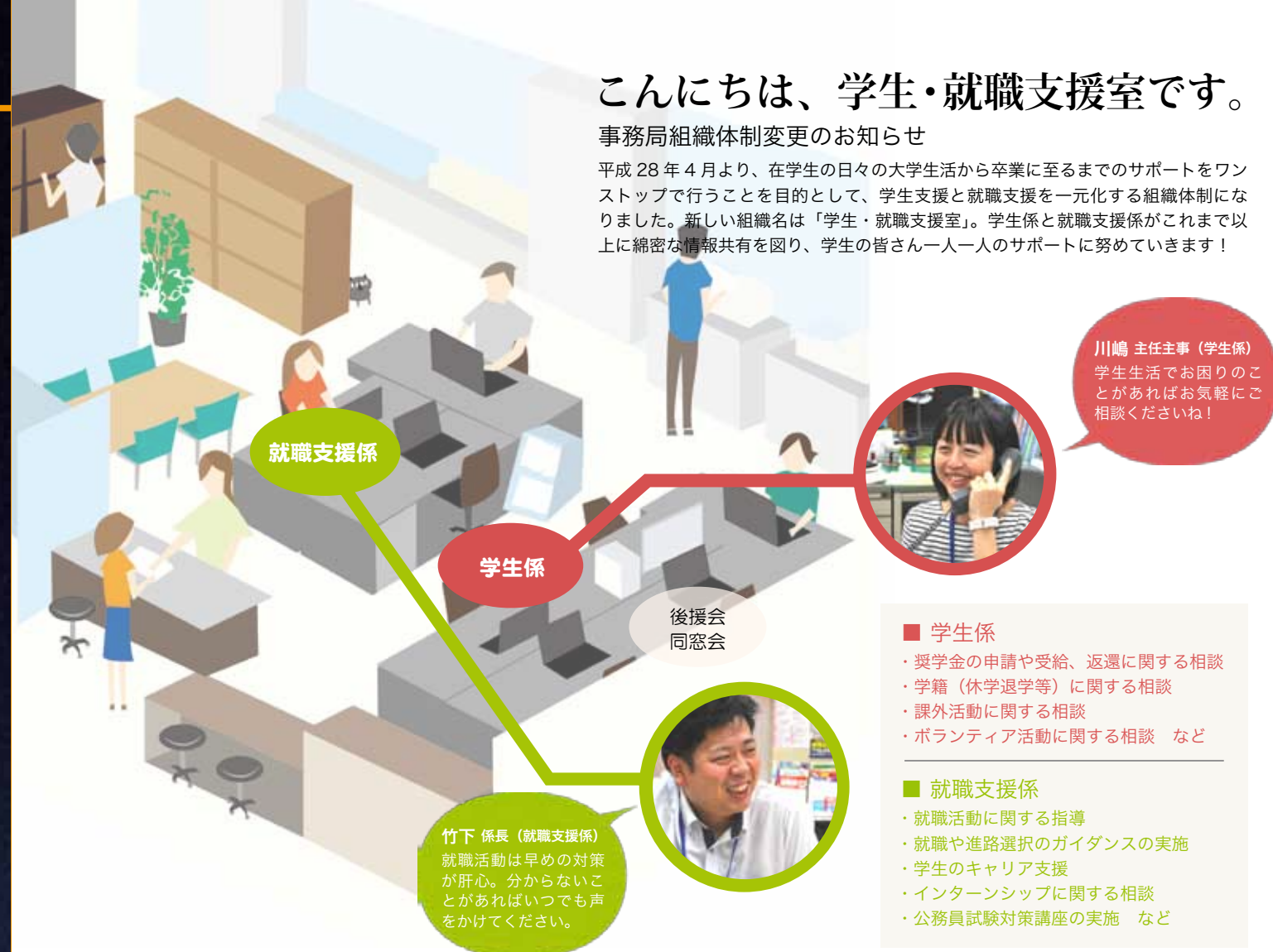
宮崎公立大学広報誌『MMU SHiP』vol.10 はお楽しみいただけましたか？
読者の皆さんからのご意見・ご感想をお待ちしております！ 右記の E メールアドレスへ >> お送りください。

Eメールアドレス
mmu-ship@
miyazaki-mu.ac.jp

こんにちは、学生・就職支援室です。

事務局組織体制変更のお知らせ

平成28年4月より、在学生の日々の大学生活から卒業に至るまでのサポートをワンストップで行うことを目的として、学生支援と就職支援を一元化する組織体制になりました。新しい組織名は「学生・就職支援室」。学生係と就職支援係がこれまで以上に綿密な情報共有を図り、学生の皆さん一人一人のサポートに努めていきます！



新規教員紹介

メディア・コミュニケーション専攻



井田 志乃 准教授
(いだしの)

国際政治経済専攻



稲田 光朗 助教
(いなだみつお)

初めての九州そして宮崎県での生活は、新たな気づきの多い日々を楽しんでいます。講義を通して、ヒト・モノ・コトの新しい関わり方をみなさんと一緒に考えていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いたします。

ご縁を大事にし、健康を自覚的に保ち、愚直に学問に取り組むことの3つを大事にしています。9年間いた京都では、想像を超える優秀な人がこの世に山ほどいることを思い知らされました。決して思い上がることなく謙虚に努力を続けます。

■ 学位：修士（デザイン学）
■ 専門分野：デザイン学
■ 学歴：筑波大学大学院人間総合科学研究科 感性認知脳科学専攻

■ 学位：博士（経済学）
■ 専門分野：国際貿易・開発経済など
■ 学歴：京都大学大学院経済学研究科

編集後記



川瀬 和也 助教
(かわせかずや)

専門は西洋哲学です。必修となっている哲学の講義では、皆さんとお目にかかることになると思います。高校生まで宮崎県内で過ごしたこともあり、地元にも研究の成果を還元していければと思っています。

■ 学位：修士（文学）
■ 専門分野：哲学・倫理学など
■ 学歴：東京大学大学院人文社会系研究科 哲学専門分野

祝！ついにMMU SHiPは第10号を迎えることができました。なんだかんだで第7号以外の制作に携わっているのですが、創刊号の発行からすでに5年も経過している…。月日が経つのは本当に早いものです（涙）。
創刊号を久々に読み返してみると、担当記事の稚拙な文章と素人感満載の紙面構成に思わず赤面！あの頃と比べると、ちょっとはマシになったかなと思う反面、まだまだプロの足元にも及んでいないことは明らかです。1人でも多くの方々に楽しんで頂けるよう、今後も技術向上に励んで参ります。さて、節目を迎えたMMU SHiPですが、これからのような成長を遂げていくのでしょう。学生たちと同様に、その成長を温かく見守っていただけると幸いです。

■ 担当 上園 祥介（企画総務課企画係）

人生の支えになるような 仲間と出会おう。

山九株式会社
永田 亜紀 さん
(旧姓：工藤)

平成14年度卒業生
中国文化論ゼミ



高校生の頃、英語が好きだったこともあって「国際的な仕事に就きたい」と思いMMUに入学しました。転機となったのは、大学2年次の異文化実習で中国・蘇州に行き、中国に興味を抱くようになったことですね。異文化実習後に公費留学として1年間、蘇州大学で学びました。留学選抜試験をパスして行ったものの、初めてのことはほとんど話さなくて(笑)。でも、現地で寮生活をしながら真面目に必死に勉強したことで、HSK(中国語検定)で好成绩を収めるほどの力を身に付けました。

大学卒業後は総合物流会社に就職したのですが、そこでの経験を経て自ら中国に行き、大連にある現地法人(大連山九国際物流有限公司)に転職しました。大連の現地法人で採用された初めての日本人ということもあって、気負いながらも3年間勤めました。日系企業なので、顧客も基本的に日系もしくは日本国内企業。お客様と中国人スタッフの間に立ち、総合的な営業窓口として作業手配や調整、物流提案等を行っていました。20代でも現地では日本人というだけで役職者なので、やりがいがある反面、中国人スタッフを統率するのは一筋縄ではありませんでした。

帰国後は九州エリア開発営業部に配属され、中国での勤務経験から、現地の通関や物流事情を理解していることに加えて、帰国後に取得した通関士の資格を活かし、現地と打ち合わせをしながらお客様に最適な物流提案や作業手配等の総合的な対応を行っています。また、上海から日本各港向けの輸入作業を手配しているので、現在も毎週、担当者とは中国語でコミュニケーションを取っています。

そのように日々、海外の取引先と対応していると「仕事をすると、やっぱり語学って大事だな」って思っています。今は仕事の傍ら、必死に英語を勉強しています。もともと英語が好きだったんですが、しばらく勉強していなかったに忘れてしまっているところもあって(笑)。

卒業して十数年が経ちますが、MMUでは当時から異文化実習や公費留学に際して助成金が支給されていて、とても留学しやすい環境だと思っています。在学生の皆さんはもちろん、これからMMUに入学する高校生の皆さんには、ぜひ大学の留学支援制度を活用しながら語学を頑張ってほしいですね。また、MMUは先生や同級生との距離が近い大学です。人生の支えになるような仲間と出会う場所だと思います。そのような仲間とともに、失敗を恐れず、積極的に目標に向かって邁進してください。

山九株式会社

大正7年(1918年)10月創立。日本と世界150拠点を結ぶネットワークによる一般貨物輸送のほか、重量物・精密機械・美術品等の特殊輸送など、幅広い物流サービスを提供。また、大型プラントの建設工事やメンテナンス、さらに顧客の工場構内での原料受入れから出荷までの操業サポート等のビジネスソリューションを手掛ける。社名は、創立時に事業の基盤としていた山陽・九州地方の頭文字と「サンキュー(Thank You)」という感謝の気持ちを掛け合わせたことに由来する。

■事業所 国内支店40/国内会社51
海外現地法人41/駐在員事務所1
■従業員数 11,151名[連結30,926名]
■東京証券取引所 第1部上場、福岡証券取引所上場
(2016年3月31日現在)



山九本店前にて(北九州市門司区)

